# 河川懇談会共同研究 ワンドの水理特性と河川環境 (木曽川下流域)

#### 担当康司事務所:木曽川下流工事事務所

- •木村 一郎(四日市大学)
- ・北村 忠紀 (パシフィックコンサルタンツ)
- 鷲見 哲也(名古屋大学)
- 武田 誠(中部大学)
- 鬼束 幸樹 (京都大学)
- 庄 建治朗(名古屋工業大学)

# 木曽川のワンド群(背割提付近)





本研究の全体構成





テーマ

感潮域に形成された ワンドの環境機能

現在に視点を固定し, ワンドの機能評価 流れと水質の 三次元構造解明





#### 実験による水制角度の影響検討

Z/Bw



実験の様子

形式	角度	堆積量(cm <sup>3</sup> )
非越流型	上向き30度	39
	直角	32
	下向き30度	24
越流型	上向き30度	127
	直角	71
	下向き30度	42



越流型では上流向き水制の 堆積量が下流向きの3倍

# 三次元数値解析による斜め水制周辺の流れ解析







底面付近の平面流速ベクトル



斜め水制の底面付近の流れの特徴 ・上流向水制:主流から水制奥へ向かう流れ ・下流向水制:水制奥から本川へ向かう流れ がそれぞれ卓越

## 斜め水制周辺の非定常流特性(三次元数値解析による)



下流向き水制の方が非定常性が大きい

ワンド土砂堆積のパターン分類と変遷過程



ワンドパターンの経年変化

ワンド変遷過程の例

R9 (17km) パターン1or 2を維持 水制をまたいだ流砂連続性が確保

R14 (19km)パターン1,2 3,4深掘れの発生ワンド上流側の植生により流砂の供給が遮断深掘れ部が安定に維持

R23 (21km) パターン1,2 5,6 1980年以降の植生が一気に進 行 ワンドの全体が植生に覆われる 平均河床高の経年変化 その1 (R9, 17.0km~17.2km)



### 各ワンドパターン形成ま での仮説と鉛直二次元 数値解析による検証





鉛直2Dモデル 上:各種パラメータの設定 下:計算格子

